

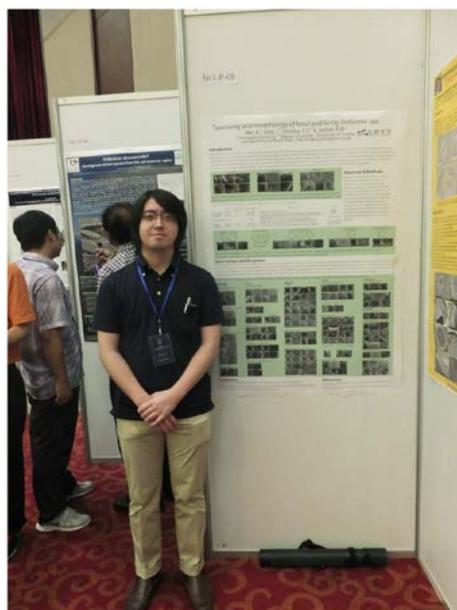
阿部健太：第 23 回国際珪藻シンポジウム参加報告書

この度、国際珪藻シンポジウム東京大会記念基金による、国際珪藻シンポジウム参加助成を受けて、2014年9月7日～12日に中国の南京にて開催された23rd International Diatom Symposiumに参加してきました。

私は「Taxonomy and morphology of fossil and living *Stellarima* spp.」というタイトルのポスターを発表しました。現生珪藻 *Stellarima* 属は、古くは白亜紀の堆積物から化石として見つかります。*Stellarima* 属は中心域に1個以上の唇状突起があり、唇状突起の位置や数、形、長さなどが分類において重要であると考えています。*Stellarima* 属は現在5種に分類されており、化石の多くが現生種の *S. microtrias* と考えられています。しかし、電子顕微鏡で微細構造を詳細に観察すると化石～現生を通して形態がたいへん変化に富んでいることがわかります。光学顕微鏡による同定・分類は非常に難しく、微細構造の観察には電子顕微鏡が不可欠です。本シンポジウムで私は、白亜紀から現在までの世界各地の露頭堆積物や海底コア試料を用い、*Stellarima* 属を走査型電子顕微鏡で観察し、比較・分類した結果を発表しました。

ポスターセッションは9日の夕方に行われ、ポスターを見に来た方々に自分の研究結果とそれについての考えを発表しました。英語でのやり取りは大変でしたが、伝わらないときはジェスチャーや紙に書いて説明しました。その結果、多くの質問や意見をいただき、大いに今後の研究の参考になりました。

聴講したオーラルセッションでは、中国の湖沼や河川、またバイカル湖等の珪藻に関する話題が多く、関心を惹きました。講演の中で特に印象深かったものは、前期漸新世における海洋珪藻の地理的分布に関する発表です。古第三紀の海生珪藻化石は私が主に研究を進めている分野であり、非常に興味深く、勉強になりました。



著者とポスター

このシンポジウムを通じて、英語でコミュニケーションをとることの重要性を再確認しました。質疑応答の際には、拙くとも根気強く伝えることで相手も必死に理解してくれようとしてくれたため、臆せず話すことが大切だと思いました。そして、今後より上達する必要があると感じました。

最後に、国際珪藻シンポジウム参加助成の支援のお陰でこのような貴重な体験をすることが出来ました。心から感謝しております。ありがとうございました。